

共生社会推進市民会議の設立に向けた第1回世話人会 報告書

◆ 2022年9月1日（木）19時より。真庭市役所本庁3階にて。

真庭に暮らす人たちや関わりのある人たち、そのほか自然環境などが「共生社会」に向かえるよう「共生社会推進市民会議」の設立を想定。世話人会、発起人会、市民会議と共生社会の輪を広げていくキックオフとして、第1回世話人会を開催した。

ただ、その輪の広がりようはだれかによって強制されるものではなく、その気運や流れ、背景をくみ取りながら、自然と広がっていくもの。そのため、あらかじめ用意されていた世話人会、発起人会、市民会議という流れ、枠組みに捉われず、常に「まだ見ぬ第3の選択肢」を念頭に模索していけたら、と考えた。

打ち合わせ段階からどうすればいいのか、迷いは隠せなかった。

言葉のやりとりだけになってはいけない。だれひとり（自然界も含めて）取り残してはいけない。トップダウンやヒエラルキーのようなものはつくりたくない。ただ、知ってもらうための方法は模索していかなければならない。「共生社会」という抽象度の高いものを自分ごとに感じてもらう必要がある。そして、世話人会を行なうからにはなにかしらの「発展性」が欲しい。

それらを意識しながら、「共生社会」という曖昧模糊とした言葉を掲げて、会議を行なっていかなければならない。そんなことができるのだろうか。

そのため、第1回はだれの見も取りこぼさないよう、こちらの問いかけに対して、参加者全員フリップで答えていただく形をとった。曖昧模糊とした「共生社会」という言葉のすり合わせ、日常生活で接点はあるか、など。「共有」をテーマとした質問を用意した。

◆ こちらから用意した問いを投げかけ、フリップに回答いただく方式。

第1問は「共生社会という言葉聞いたことがありますか？ それはどんな場面ですか？」。

- ・地域共生社会。人権尊重。仕事で。
- ・聞いたことある。市の会議の中（行政改革審議会か？）。テレビ（ハートネットTV？）
- ・地域包括ケアシステムでの勉強中、聞いたことあり。真庭広報紙。
- ・道路の端。

- ・聞いたことがある。ニュース、WEB。
- ・ある。重層的支援体制の研修会。
- ・あります。「職場」
- ・ネットニュースの記事で読んだことはあるが、あまり聞いたことはないです。

第 2 問は「共生社会という言葉からどんなイメージを抱きますか？」。

- ・思いやり、安心、仲良く、あったかい。
- ・お互いに生きる。父と母と子と（農家）。
- ・高齢者、障がい者が普通に暮らせる町。
- ・浮かびそうで浮かばない。
- ・誰もがつながっている。
- ・みんな、すべての人、様々な、全世代。
- ・ごちゃまぜ。
- ・色々な人が暮らしやすい社会。多様性の認められる社会。

第 1 問と第 2 問を経て、「共生社会」について自分の言葉で語れているだろうか。情報だけで語っていないか）や「ごちゃまぜには、高齢者、障がい者、子ども、LGBTQ など、多様な人々が含まれている」、などが印象的だった。

雰囲気は終始なごやかだったものの、問いに対する戸惑いも感じられた。言葉にすることで洩れてしまう人やことがあるのではないかと、という漠然とした戸惑い。言葉で共有する難しさを痛感した。

第 3 問は「いまされている活動と共生社会の接点はありますか？」。

- ・市役所すべての仕事であるはず。そうでないといけない……。義父の買い物。公園の草とり活動、仕事。
- ・選果場で色々な人が働いている。農作業でも。葬儀。
- ・仕事すべて（人と接する）。コミュニティ活動での人脈。高齢者（老人クラブ）のボランティア活動。
- ・移住、人、取り残さない。
- ・私でもできるかも……。を増やす。

・すべて（福祉のまちづくり）。地域の方とすすめる福祉活動。ボランティア活動。福祉学習。個別支援……などなど。

・人との携わり。

・色んな人を雇用して、チームワークでものづくりをしている点。

◆ 休憩を挟み、その後はフリートークを展開した。下記、その中で印象に残った内容。

・「共生社会」という言葉を伝える難しさ。

・ムスメたちと「共生社会」を一緒に考えるためのきっかけとしたい。

・自分たちが思っているよりも「共生社会」は広いのかもしれない。

・どうすれば、真庭の人たちに知ってもらえるか。

・普段は意識していないが、取材などで「女性杜氏」が全面に出ると、逆にマイノリティを意識させられる。

・いまは広げるとき、「共生社会」をまとめる必要はない。

・この会議を続けていけば、やがてまとまりが出るのではないか。

・「共生社会」ではない社会は、どんなものだろうか。

・いろいろな方の「暮らしにくさ」を聞きたい。言いたいけど言えない人もいるのではないか。

・いまの社会には、言いたいことが言える受け皿があるだろうか。

・「共生社会」を叶えようと細分化されたテーマの、そのすきまから洩れる人がいるのではないか。

・福祉のサービスが提供できない。こちらからどうにもできない人たちがいる。

・違いにも気づけるけど、同じにも気づけることの大切さ。

・「共生社会」というのはきっといいものである。

◆ 第1回の話し合いを経て、次回以降も形に捉われず、開催していこうとなった。